

国土交通大臣表彰を受賞して

東北地質調査業協会宮城県理事
((株)テクノ長谷代表取締役社長)

早坂 功



平成 26 年 7 月に国土交通省大臣表彰(建設事業関係功労)を受賞致しました。受賞は身に余る光栄でありまして、これもひとえに推薦して頂きました(一社)全国地質調査業協会ならびに東北地質調査業協会の皆様のご支援の賜物と心から感謝しております。当協会では、奥山紘一元理事長が平成 17 年度受賞して以来の 10 年ぶりになります(奥山元理事長はその後、黄綬褒章、旭日双光章を受章なされております)。

受賞経過などは次のとおりです。

平成 25 年 9 月に、全地連の池田事務局長から大臣表彰推薦の知らせと関係資料の送付があり、12 月に申請書類原稿を提出致しました。申請書類は、①上申書、②審査票、③功績調書、④履歴書、⑤会社概要調書、⑥団体概要調書、⑦その他関係書類および⑧戸籍抄本からなります。③から⑦の原稿は東海林事務局長はじめとする関係諸団体の皆様方のご協力のもとに作成致しました。

この原稿を基に、全地連が①と②を作成して平成 26 年 1 月に申請書類を国土交通省に提出し、6 月に事務次官から全地連を経て内定通知を頂きました。7 月 9 日に報道解禁、7 月 10 日に国土交通省 10 階共用会議室 A にて表彰式が行われました。



表彰式会場にて

表彰対象部門は建設業関係など 10 部門あり、受賞者総数 221 名 5 団体(出席者 195 名)、建設業専門部門 47 名でした。そのうち地質調査業は私を含め僅か 2 名(他の 1 名は、前中国協会理事長の藤井三千勇

氏)で、建設コンサルタント業も 2 名で少ないですが、測量事業部門はやや多い 12 名でした。

表彰理由は『多年地質調査業に精励するとともに関係団体の役員として業界の発展に寄与した』とあり、表彰状と記念品『木製漆器金彩五七桐花紋(日本国政府の紋章)入組盃』を頂きました。



表彰状と記念品

翌 7 月 11 日に東海林事務局長から東北協会会員に受賞の連絡をして頂きました。

祝賀会は、当協会、(一社)斜面防災対策技術協会東北支部および(一社)全国さく井協会東北支部の三協会合同で開催して頂けるとの有難い申し出がありました。が、大規模になることと震災直後でもあることから辞退致しました。代わりに、9 月に、弊社の創立記念と合わせてささやかな祝賀会を開きました。祝賀会には、三協会会員を代表して高橋和幸地質理事長、奥山和彦斜面支部長、大友秀夫さく井支部長、高橋克実地質理事のほか遠藤敏男建コン支部長にもご臨席・ご祝辞を賜るとともにご祝儀も頂き大変感謝しております。また、協会の方々からも祝電やお祝いを頂きました。紙面をお借りして御礼申し上げます。

受賞対象となった役職は、平成 19 年から平成 25 年までの 3 期 6 年間の(一社)全地連常任理事兼東北地質調査業協会理事長であります。

全地連常任理事としては、全地連理事会へ出席し、東北地区と全地連・他地区協会との情報交換、意見交換を行うことのほかに、全国技術フォーラム及び他の地区協会記念行事(50 周年など)へ参加致しました。

東北協会理事長としては、①総会・臨時総会、②役員会、③意見交換会、④災害協定、⑤若手セミナー、⑥資格試験と講習会、⑦大地の刊行などを他の役員とともに計画・実施しました。行事をスムーズにするために、理事会の補助として、仙台市内在住の総務委員長、技術委員長、広報委員長の三委員長と事務局長に理事長を加えた⑧委員長会議も月に1回程度開きました。

理事長として特に思い出に残るものとして、当協会50周年記念事業と東日本大震災があります。

50周年記念事業は平成21年度に行われました。前年度に、理事長（早坂）・総務委員会（曾根好徳委員長）・広報委員会（高野邦夫委員長）・事務局長（西山努氏）をメンバーとした「50周年記念行事実行委員会」を立ち上げ、ほぼ1年以上の準備期間を経て、式典、講演会、祝賀会からなる記念行事を仙台国際ホテルで11月5日に行う事が出来ました。講演会は「笑いが空から降るために」の演題で伊奈かつぺい氏をお願いし、一般の人への公開と致しました。記念行事の写真は「創立50周年記念誌」に収めてあります。記念刊行物としては、機関誌「大地」が丁度50号になるので、「創立50周年記念特集号」として発刊いたしました。内容として協会・「大地」の歩みや「温故知新」のほかに、大学の先生方をお願いして東北地方の地質を各県別に執筆して頂きました。当初は、6県すべて掲載する予定でしたが、青森県・秋田県・山形県の3県だけの掲載となりました。岩手県・宮城県・福島県は次年度以降の「大地」に連続掲載され、全体を取りまとめたものが、平成26年度の技術フォーラム秋田で配布されました。10年に1回の創立記念行事、しかも50年という節目の行事を無事に終えることが出来て大変嬉しく思いますが、これも各委員長はじめ全会員が気持ちを一つにしての結果だと改めて皆様に御礼申し上げます。



高橋理事長祝辞（株テクノ長谷の祝賀会）

平成23年3月11日に発生した未曾有の東日本大震災は、当協会だけでなく業界全

体にも大きな影響を及ぼし、現在に至っております。当協会では直ちに「災害対策本部」を立ち上げました。本部の構成は、本部長が理事長（早坂）、副本部長が三委員長（大友秀夫総務委員長、高野邦夫技術委員長、高橋克実広報委員長）、役員が鶴原敬久技術委員と西山努事務局長でした。本部は、会員各社の被害状況の把握に努めるとともに、災害協定を結んでいる東北地方整備局と宮城県土木部に応援協力の打診と情報確認を行いました。宮城県土木部とは震災前年10月に締結したばかりでしたが、土砂災害危険個所の緊急点検の応援要請があり、すぐに対応致しました。点検は、土石流危険渓流2,945か所、地すべり危険個所59か所という膨大なものでしたが、宮城県会員に山形・秋田両県会員を加えた18社32班体制で短期間のうちに完了する事が出来ました。

全地連から頂いた義捐金は、被災県である青森県、岩手県、宮城県および福島県に「災害復興寄付金」として全額寄附させて頂きました。全地連をはじめとする各地区協会および関係機関や団体から頂いた見舞金は、「東日本大震災に関する技術講演会」の開催と講演論文集発行費用及び被災した東北大学の博物館への物品の寄贈などにあてました。

震災の復旧・復興事業は、建設業をはじめとして建設関連業にも大きな影響を及ぼしました。震災前は、公共事業の減少に伴い極めて少なくなっていた発注量が、震災後直ちに多量の発注がなされ、ボーリング機械やオペレーターが不足し、全国から多数の同業者が応援に駆け付ける状態になりました。震災後3年9か月を経て、発注量はピーク時を過ぎましたが、復興は緒に就いたばかりであり、もうしばらくは仕事量が多いものと思われます。

そのほか、「みちのくGIDASの発足」、「仙台工業高校への出前講座の開催」、「臨時総会の再開（福島県が初年度）」なども思い出の一つです。

3期6年間の間に50周年記念と東日本大震災という二つの大きな行事や災害がありました。各理事・委員長・委員会・事務局そして協会の皆様方の暖かいご支援があってどうにか無事に任を終える事が出来ました。ひたすら「感謝」して、今回の受賞の御礼に代えさせていただきます。

最後になりますが、何かと支えてくれました故坂本和彦前青森理事に感謝申し上げますとともにご冥福をお祈りいたします。